

令和8年4月11日（土）

お早う御座居ます。本日は黙祷から始まりましたので、いつもより少し気持ち引き締まる感じがします。

本日は、初めて朝日新聞に驚かされました。私は新聞を読む際、まずその記事が事実に基づいているのか、フェイクではないかという点を重視しています。今日の朝日新聞には、気になる記事が2つありました。

1つは、面接に関する記事です。ある会社での面接の様子が取り上げられておりました。

「ぜひ御社で働きたいのですが、いかがでしょうか。私はITの専門家です。現在はアメリカにいますので、日本に本社することはできませんが、十分お役に立てると思います」この面接の様子を動画で見ていた面接官はどこか違和感を覚え、なりすましではないかと気づいたそうです。

その人物は、日本に毎日本社することはできないけれど、オンラインを通じて業務はきちんと行うので給与を受け取りたいと主張していたとの事です。

2つ目の気になった記事は、「多事奏論」に掲載されていたもので、執筆者は高橋純子さんです。記事には顔写真も掲載されており、誰が書いたのか明確になっていました。

天声人語もそうですが、多事奏論のような論考で、自分の意見を述べる際に、「これは私の主観です」と明確に示し顔写真や氏名を伴って堂々と主張されている事も非常に興味深く感じました。

内容は、高市早苗さんに対する問いかけが中心でした。まず何故記者会見を行わないのかという点と、最近ぶら下がり取材がほとんど行われていないのは何故か、という指摘です。

ぶら下がり取材とは、ご存じの通り、首相が移動中記者が呼び止め、その場で質問を行い、即座に回答を得る形式の取材を指します。あれほど発信の少なかった石破さんでも記者会見やぶら下がり取材には応じていました。

高市さんは露出自体は多く、日頃から国民に向けて発信している印象があるものの、記者会見やぶら下がり取材の機会が少なく、大本営発表ばかりになっていると指摘があり、朝日新聞の記者はそうように受け止めているのかと感じさせる内容でした。

記事で気になった事があります。歴代の総理が現地を訪れる際、津波や地震等で大きな被害を受けた方々に対して、いたわりや労いの言葉をかけるのが一般的ですが、記事ではなぜそうした言葉を発していないのか問いかけがなされていました。おそらく継続的に発言を追い、調べた上での指摘なのだろうと思います。少なくとも、高橋純子さんは、高市さんがそのような言葉を発していないという問題意識を持っているようです。

高市さんは一度発言したことを訂正しません。これは中国に対しては大変良かったと思います。中国への発言について、撤回しない態度を示した事には、本人の性格が表れていると感じました。

冒頭から朝日新聞についてお話しするのは今回が初めてですが、高橋純子さんは朝日新聞の中で特異な存在なのかが気になりまして、お話をしました。素読解説に入ります。

### ①子路第一三【15】

いちげん 一言にして邦を喪すもの諸れ有りやと。こうし こと いた 孔子 対えて 曰く、げん もつ かく 言は以て是の  
ごと 其れ 幾すべからず。  
ひと げん いた われ きみ た たの な ただ そ い われ たが 人の言に曰く、予君為ることを楽しむ無し。唯其の言いて予に違うこと  
な 莫きなりと。もし 其れ  
ぜん これ たが な また よ も ふ ぜん これ たが 善にして之に違うこと莫くんば、亦善からずや。如し不善にして之に違  
うこと莫くんば、一言に  
して邦を喪すことを幾せざらんやと。

### ②子路第一三【26】

し いわ くんし たい 子 曰く、君子は泰にして驕らず。しょうじん おご たい 小人は驕りて泰ならず。

「一言にして邦を喪すもの諸れ有りやと。」

魯の定公が孔子に対して投げかけた問いです。本音では私が国を滅ぼすことはない、という思いを持ちながら、このような問いを発したと考えられます。

また、これは中国の古典に由来する考え方です。中国においては、非常に

強い表現で相手を威圧する発言が見られます。「その汚い首を切ってやる」という発言が、高市早苗さんの話を受けて、すぐに日本へ来ている総領事から発信されたのですから、大したものだと思います。

これは俗にいう恫喝外交とか戦狼外交などのたぐいです。習近平さんは、国家主席になるまでは、人畜無害の塊のような印象で、階段を一つ一つ、序列を上がっていく間、ひたすら恭順姿勢を取り続けてトップに上がりました。

上がって何をしたかといえば、それまで引き立ててくれた長老達の排斥を始めました。極めつけは、全国人民代表大会の際、もう貴方は用済みだから引っこみなさいという形で、前国家主席を外へ出した事です。自分の部下に命じて手を取らせ、無理やり外へ連れて行ったように見えました。

自分を引き立ててくれた恩人であっても、用済みになれば排除する。そしてそれを満天下に示し、私に反対する者、私を批判する者は、たとえ恩人であっても追い出す事を公にした事例だったと言えます。

そして、習近平に対して NO と言った人間は、次々に拘束され、逮捕されて牢屋に入れられます。現在の中国では、そうした要人たちが捕まったり、途中で行方不明になることがあります。名前が表に出なくなり、一体何処にいるのかと考えると、答えは限られてきます。既に殺されているか、あるいは生きている場合でも、要人専用の牢屋に入れられていると考えられます。実際、要人専用の牢獄は、現在満杯だそうです。

「一言にして邦を喪すもの諸れ有りやと。」

この言葉を現代に当てはめて考えると、たった一言で国を滅ぼしてしまう者がいるのではないかと問になります。現代の国際情勢を見れば、トランプか、プーチンか、習近平か、または金正恩か。アメリカについては、まだそこまでは至らないと思われます。一言で国を滅ぼすかと言えば、やはり多少の時間はかかるでしょう。

この考え方を自分自身に置き換えて、自分が所属している団体や、経営している会社に当てはめて考えてみて下さい。私であれば、「一言にしてシムックスを滅ぼす者、深澤なるや」と読み替えます。

では、高市さんはどうかと考えると、国を滅ぼしかねない発言をする可能性はあるかもしれませんが、まだその段階には至っていないと言えます。

この点については、論語のもう少し後の部分に関連する記述がありますので、高市早苗さんについては、そちらで説明したいと思います。

「孔子答えて曰く。」

このときの孔子は、まだ比較的若く、おそらく 50 代くらいでしょう。意気

軒昂な時期で、まだ余命も 20 年以上あると考えられる頃の発言ですから、非常に元気です。現代は人生 100 年時代とも言われますので、自分でまだあと 20 年は大丈夫だと思えば、その分元気も続くと思います。

「言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、予 君為ることを楽しむ無し。」

「言は以て是の若く」は、一言で国を滅ぼす言葉など、そう簡単には存在しないが、それに近い言葉はある、となります。

「人の言に曰く」とは、世間の人と言うには、という意味です。孔子は、自分の考えを前面に出して語ることをあまりしませんでした。自分で文章を書いて、自分の思想だとは言わず、昔の優れた人物の言葉や教えを集め、それを弟子たちに伝えていました。

これは論語にある「述べて作らず」という言葉で表されています。新しい思想を作っているのではなく、昔の賢人が言った良い教えを伝えているだけという姿勢です。ここでも「人の言に曰く」として、当時の世間の人々の声を引用する形を取っています。

「予、君たることを楽しむ無し」は、私は君主という立場を楽しいと思わないという意味です。現代風に考えると、大統領は、決して気楽で楽しいものではない。

現代の政治家にはトランプのように、言いたいことを自由に発言し、気に入らなければ厳しく批判したり、強い態度を示したりする人物もいます。また、軍事的な圧力をかけながらも、状況次第で方針を変えることもあります。そのような姿を見ると、権力を行使する立場を楽しんでいるように感じられる場合もあります。

しかし、本来、国家の指導者という立場は非常に重い責任を伴うものです。国民や国家全体のことを考え続けなければならない、不安や緊張から、落ち着いて眠ることも難しい程気を配る立場だと述べているのです。

現在の世の中には、いわゆる預言者というのでしょうか、未来を予測するような記事が溢れています。私がこれまで見てきた中では、4 月に関する予測が最も多いように感じます。

大津波が来る、大地震が起こる、富士山が噴火する、そのような話題が次々に現れます。4 月に入ると、9 日が危ない、11 日が危ない、といった具

合に日付まで示され、占い師や預言者と呼ばれる人たちが、この日が危ないと盛んに語り始めます。さらにはマヤ文明まで持ち出し、4月が最も危険であるといった話まで出てくるのです。

私は『ムー』という雑誌を読むのですが、その種の話題が実に数多く掲載されていて、こんな事まで考えるのかと読んでいて楽しめます。『ムー』の編集長は、きっと楽しみながら編集しているのではないかと思います。もし、楽しむ余裕のない編集長であれば、不安に駆られながら記事を書いていることでしょう。

会社の社長を務めていると、気の休まらないことが多いものです。ここに書かれている「我、君たることを楽しむなし」という言葉も、会社経営に置き換えて考えると理解しやすいでしょう。

仕事の最中に、様々な事件や事故によって亡くなられた方は、やはり数多くおられます。その為、そうした出来事については、事件・事故の記録や年表をきちんと作成し、社内にはそれをまとめた小さな部屋を設けています。

そこでは、事件や事故、トラブルがあったことが一目で分かるように整理されており、当時の遺品などもあわせて展示されています。私の会社では、そのような取り組みを行っています。

ですから、社長という立場は、一年中気の休まることはありません。常に、いつ自分が責任を取ることになるかという緊張感の中に置かれています。言ってみれば、自分で自分の首を切る覚悟を、常に持っているということです。

それは、まるで薄氷を踏むような感覚で務めるものです。にもかかわらず、自分は社長になった。よかった、よかったと浮かれているようでは話になりません。そんなものは愚かな考え方だということです。

だからこそ、「我、君たることを楽しむなし」という言葉になるのでしょう。世間の人々も、昔からそのように語ってきたのです。

「唯 其の言いて予に違うこと莫きなりと。」

自分の言うことに反対する者がいない状態です。誰も反対しないから気分が良いと感じるということです。

中国では、そうしたことを言う人間自体が殆どいません。言った瞬間に処分されてしまいます。互いに腹を括り、覚悟を決めて権力構造の中にいるのです。

北朝鮮はさらに極端です。反逆者とされた者を処刑し、その様子を家族に見せる。現在でもそうした事例があると報じられています。

逆らう者、国家反逆罪を犯した者として、家族や友人、関係者を集め、大勢の前に並べる。今から処刑すると宣言して一斉射撃で処刑し、さらに火炎放射器で焼き尽くして灰にする。その様子を人々に見せつけ、さらにはニュースとして流しています。

「唯 其の言いて予に違ふこと莫きなりと。如し其れ善にして之に違ふこと莫くんば、亦 善からずや。如し不善にして之に違ふこと莫くんば、一言にして邦を喪すことを幾せざらんやと。」

ただ、言うことに誰も逆らわないというのは、自分が何かを行った時に反対する者がいないのは気分がいい。さらに、反対した者を首にできる力を持つのは嬉しいことだ、と私は思っている。これは魯の定公の話です。

それに対して孔子は、もし善いことを言い、誰もそれに反対しないのであれば、それは良いことでしょう。しかし、もし善くないことを言い、それに誰も反対しないのであれば、その国は滅びる事でしょう。と孔子は語っています。

誰もトップに反対しなくなった時国が滅びるということは、トランプ、習近平、プーチン、金正恩の発言を見続ければ分かります。また、高市首相が何を語るのか、自分自身の判断基準で見極めましょう。もし判断基準に迷うようであれば、今日の素読を思い出し、照らし合わせて考えてみて下さい。

また、会社経営をしている方は、自分の発言がどのようなものを、時折こうした魯の定公の話と照らし合わせながら振り返ることが大切です。しっかりと判断基準を持つ事が必要であると受け止めて下さい。

比田井さんから高市さんの話が出ましたが、高市さんについては以前にも申し上げた通りです。高市さんが「働いて・働いて・働いて・働いて、働いて参ります」と語った時、私は時代が変わったと感じました。私は意識して、そういう表現を使っています。

高市さんの発言を聞いて、これから時代が変わると予感したのではありません。あの発言を聞いた時点で、すでに日本の時代は変わってしまった、日本という国のあり方そのものが変わったのだ、と過去形で受け止めました。

その後の様子を見ていても、高市さんは長年内に溜め込んできたものを、一気に表へ出しているように見えます。

高市さんがやりたい事の一つは、日本にはスパイが多すぎるということで、スパイ防止法を制定したいと考えているようです。表向きには、世間に受け入れられやすいようにインテリジェンス機能の強化といった表現を使っているのかもしれませんが。

さらに、国家情報局のような組織を作ろうとしているとも言われています。日本はスパイ大国だと言われていますが、その実態を調べ、情報を集めて分析し、政策を行う為の会議を作る。その為の事務局も整備する、という構想です。

つまり、日本も国際的な情報戦の中に本格的に加わり、今後は外国から日本に来て、今までのように自由にスパイ活動はできないという姿勢を示そうとしている訳です。

次に、日本の土地を外国人へ売ってはいけないという考えも持っているようです。利用することまでは認めても、所有権の移転までは認めない、という考えをずっと胸の内に抱えているのでしょう。

自分は正しい、間違っていない、と信じて突き進む姿勢は、先程の高橋純子さんの指摘にも少し重なります。自分が正しいと信じて進むこと自体は良い事ですが、もし方向を誤っていた場合には危うさもある。そうした点で、私はヒトラーの台頭の仕方と少し似ているようにも感じます。

ということで、高市早苗さんを見る時には、高橋純子さんの書き方を興味深く思い起こします。冒頭で、前代未聞の今までにない総理大臣が出現したと定義づけ、その上で多くの批判を書いています。それを書いたからといって処罰されたり、逮捕されたりすることはないでしょう。

もし仮に、高橋さんのような人物を公安が拘束したら、メディアは強く批判し、行方不明になれば大きな問題になる筈です。

ただ、高市さんが直属の実行組織を持つようになれば話は別です。習近平が反対派を拘束できたのも、直属の部隊を持っていたからです。国家のトップが直属の実行部隊を持てば、何をするか分かりません。

次は、論語解説②に参ります。

## ②子路第一三【26】

子曰く、君子は泰<sup>たい</sup>にして驕<sup>おご</sup>らず。小人は驕<sup>おご</sup>りて泰<sup>たい</sup>ならず。

これは皆さん、それぞれ自分に置き換えて考えればよい話だと思います。「泰」という字をどこかで見たと思ったら、安岡正篤先生の次男の名前に使われていました。「泰」とは、心が穏やかで、見た目にもゆったりと落ち着いている様子を表します。もう亡くなれましたが、正泰さんも確かにそういう雰囲気を持った方だったと思います。

君主は、心が穏やかで落ち着いていて、驕りません。驕るとは、好き勝手なことをしたり、威張り散らしたりすることです。

その反対の言葉として、「小人は驕りて泰ならず」とあります。このあたりで、自分は君子型なのか、小人型なのか、自分の胸に手を当てて考えてみて下さい。

小人型の方は、話を大げさにし、自分に都合よく話を膨らませます。人を見ると、皆自分より劣っているように感じ、自分は一番頭が良い、一番正しいと思い込む。人を見下し、尚且つそれを口に出してしまいます。

さらに、分不相応な物を欲しがります。良い絵や書を見つけ買いたいと思うと、給料の何倍ものお金を使ってでも買おうとし、あとで何とかすればいいと考えるのです。

小人の特徴をまとめると、話を大げさにし、人を侮り、そして自分の身の丈に合わないものを欲しがることです。

今、中斎塾フォーラムに参加されている方は、皆さん小人型タイプではなく、君子型タイプであると思っております。君子型ではないとしても、小人型にはならないよう心掛けると良いでしょう。

女性でご主人が社長をしている場合、何かアドバイスをするのでしょうか。助言してくれる人がいるのは良い事です。税務署の人が助言してくれば、尚良いかもしれません。

税務署は通常の給与にはあまり細かく言いませんが、退職金となると非常に厳しく見ます。社長が退任して退職金を受け取ると、大抵調査が入り、退職金が多すぎるので認められないと指摘されることがあります。

また、退任後に顧問等となって給与を受け取る場合も、金額が多すぎると問題になります。不文律として、以前の役員報酬の半分以上、さらに役員の人達より低い水準にしなければならないという基準があります。どうぞ御注意下さい。

今回の論語素読は、〈今の時代に置き換えて考えてみる〉に即して解説しましたので、こちらで終わりと致します。

### 〈恒例の質問〉

恒例の質問に参ります。今年も4月になりましたが、如何でしょうか。

#### ○良い日が続いておられる方

今迄、色々嫌な事や悪い事があっても、1つでも良いことを思い出せば、今月はいい日が続いているなど思えるものです。

事務所からここへ参りましたが、途中イチョウの新芽が青く綺麗に見えました。反対側には、まだ桜が残っている木が一本ありました。そして足元には黄色いタンポポ、少し先にはツツジも見えます。桜の次はツツジの季節かと思いました。

ここへ来る迄全速力で走っていたら、こうした景色に気づく余裕はありません。少しゆったり進むからこそ、心のゆとりが生まれ景色を愛でる気持ちで出て、今日は良い日だと思える訳です。

#### ○嘘はつかれなかったし、嘘もついていないという方

#### ○有難うと言い続けているし、有難うと言われ続けている方

#### ○身体の手入れをよくやっていると思う方

#### ○自分磨きをよくやっていると思う方

#### ○昨晚寝るとき、満足感を持って寝た方

夜寝る時に、今日は本当にいい日だったと満足して眠るのと、気に入らない事に腹を立てたまま眠るのとでは、身体への影響も違うのではないのでしょうか。

医者のお話でも、怒りやストレスを抱えた状態は身体に良くないそうです。

実際、ストレスを測る機械では、穏やかな気持ちで眠った時と、強いストレスを抱えたまま眠った時で、自律神経の状態に違いが明確に現れるそうです。

中斎塾フォーラムでのお話ですので、ここで安岡先生について触れます。安岡先生は、「人間は猛毒を作る生き物である」と語っておられました。強い怒りを抱き、許せないと本気で憎しみながら吐いた息を集め、水分に変えて注射すると、実験ではネズミが即死した、というアメリカの学者の研究を紹介されています。これは安岡先生の著書にも繰り返し書かれている有名な話です。

つまり、人間は穏やかな気持ちでいる時と、怒りに満ちている時では、吐く息さえ違うということです。そうであれば、心の状態が身体に影響を与えない筈がありません。ですから、できるだけ笑顔でよかったね、と言いながら過ごすことが大切だと思います。恒例の質問は以上です。

#### 〈昭和 21 年 2 月 17 日を調べよう〉

実際にどのような日だったのか、ぜひ自分で調べてみて下さい。中斎塾東京フォーラムでは谷口さんが詳しく調べておられましたが、実際に自分で調べた方はあまり多くないようです。ネットで調べても良いですが、ネットには怖い部分もあります。

この間、弁護士の方と話をした際、お仲間ネットで引用して報告書を出したところ、弁護士会から処分を受けたという話を聞きました。ネットに書かれているものを報告書等に引用する場合は、一度きちんと検証しなければいけません。その方は、それ以降ネットの情報は必ず出典を確認するようやり方を変えたということでした。皆様もネットの情報は御注意下さい。

日経や朝日、毎日新聞等にも書かれていますが、これについては、是非皆様ご自身でも改めて見直して戴きたいと思います。ネットで調べるのもよいでしょう。現在では、2月17日に関する情報がさまざまな角度から数多く説明されています。私は10年程前から、また同じことが起こるとずっと思ってきました。

今は1万円札の肖像が渋沢栄一になっていますが、1万円札の顔が変わる度に、政府が2月17日と同じことをまたやるのでは、とハラハラどきどきしながら、少しずつ対応を考えていました。

渋沢栄一への変更時は、かなり前から予告されていたので、今回は少し違ったやり方なのだろうと考えていましたが、実際には、国民が大きな影響を受ける事態に向ってじわじわと進んでいるのだと感じています。

どうぞ 2 月 17 日について、何らかの方法でご自身でも調べてみて下さい。

本日は以上で終了とします。有難う御座居ました。